

The library news

夢の図書館



3月号(弥生) (第205号) 2019年3月7日発行

夢野台高校図書委員会編集B

みなさんは今年度、何冊本を読みましたか?よく読書は、視野やものの考え方を幅広くしてくれると言われてます。

では今年度振り返って、自分は成長したと思いますか?もちろん、この「成長」に様々な意味が込められています。交友関係が増えた・クラスの活動に貢献できた・・・等。もしかしたら、何かが出来るようになったことには、間接的に読書が要因にあるのかもしれませんが。読書は、新たな成長(世界)の扉を開けてくれるものの一つと私は思っています。まずは、夢の図書館の扉を開けてみてください。

(S.H)

図書委員のおすすめ本

「死ぬほど読書」

丹羽 宇一郎 著



「よく「読書」と聞くけど、何がいいのか??」そのような疑問を解決してくれる一冊なのではと思いオススメです。著者の丹羽宇一郎さんは、元伊藤商事の社長・会長を歴任されました。また、実家が本屋を営んでいることもあり、本好きで有名です。いつも本を読みたい気持ちはあるけど・・・最後まで読み切れない人にはこの本を是非読んでみてください。

(2年 S.H)

「風の歌を聴け」

村上 春樹 著



日本一有名な作家と言っても過言ではない、村上春樹さんの処女作。若者のもつ喪失感を独自の温かみと軽妙さで見ごとに表現した一冊。村上春樹デビューにはおすすめです。

(2年 Y. N)



「優しい死神の飼い方」

知念 実希人 著

犬の姿となり、人間の世界のホスピスに左遷された死神レオ。洋館で起きた殺人事件、色彩を失った画家。死に直面する人を未練から救うために、レオが患者たちの過去の謎を解き明かす。ちょっぴり天然な死神と人間との交流に心温まる一冊です。

(SHO)



「告白」

湊 かなえ 著

この本は章が変わるたびに、語り手が「女性教師」「級友」「犯罪の家族」「犯人」と変わっていきます。まず校内で娘を亡くした女性教師の告白からはじまります。語り手が変わることによって事件の全体像が浮かび上がり、衝撃的なラストになっているので是非読んでみてください。

(M)



「ツナグ」

辻村 深月 著

一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれるという「使者（ツナグ）」。突然死したアイドルが心の支えだったOL。親友に抱いた嫉妬心に苛まれる女子高生。失踪した婚約者を待ち続ける会社員。ツナグの仲介のもと再会した生者と死者。それぞれの思いを抱えた一夜の邂逅は何をもたらすのだろうか・・・。

(H.O)



「夏と花火と私の死体」

乙一 著

乙一のホラー小説の代表作と言える一冊です。今までになかった文章や書名で惹きつけ、読み始めたら止まらなくなること間違いなし！！

9歳の夏休み、主人公の五月は友人に殺されてしまう。死体になった五月の視点で描かれています。読みごたえある本です。

(S.K)